

令和8年度 豊田市立小原中学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止等についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす行為である。また、どの生徒も被害者にも加害者にもなりうる。だからこそ、生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、すべての教職員がいじめの防止等に取り組まなければならない。

これらの基本的な考えを基に、教職員一人一人がいじめの問題の重大性を正しく認識し、日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していく。何より学校は、生徒が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなくてはならない。生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。

そうした中で、生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

◎ いじめに対する基本姿勢

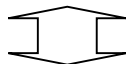
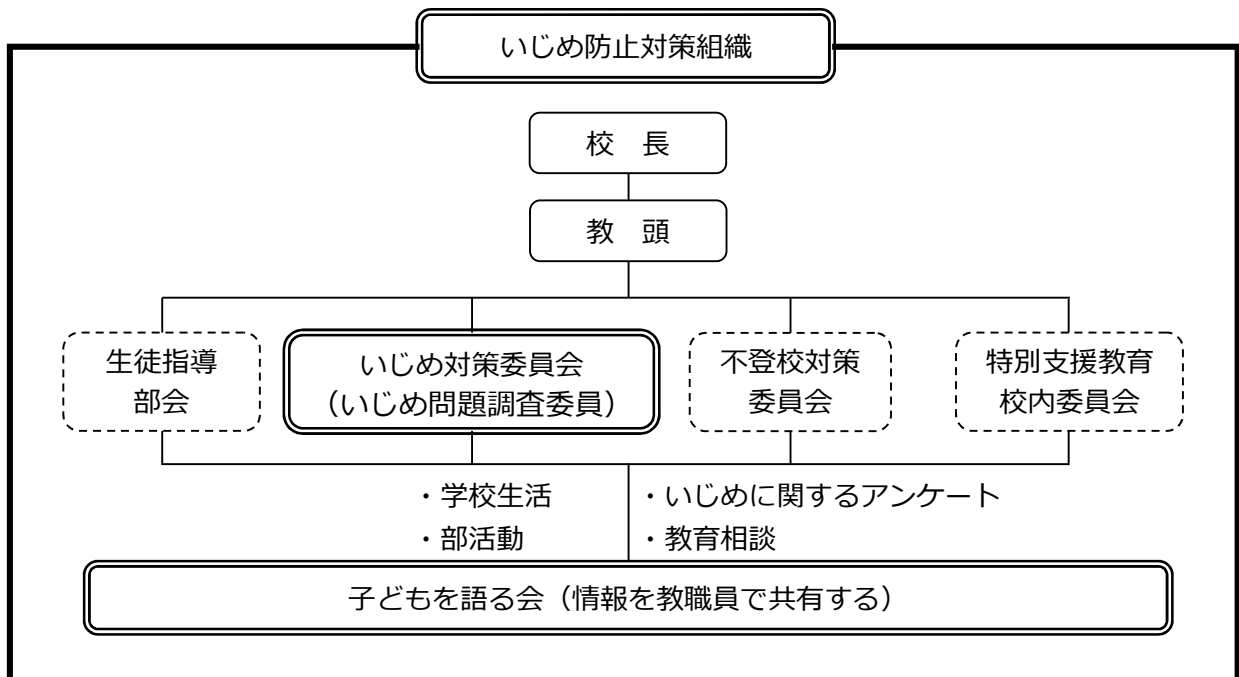
「いじめは、人間として絶対に許されない」という強い認識をもつ。

「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こりうる」という危機意識をもつ。

2 いじめ防止対策組織

校内に「いじめ防止対策組織」として、「いじめ対策委員会」と「子どもを語る会」を設置し、ささいないじめの兆候や懸念、生徒からの訴えを、特定の教職員が抱え込むことのないよう組織として対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携し、適切な援助を求める。

年間計画の作成・実行・検証・修正	生徒指導主事、教育相談主任、養護教諭
校内研修の企画・実行	教務主任、校務主任
学校いじめ防止基本方針の見直し	校長、教頭(教育相談コーディネーター)



関係機関等との連携 (パルクとよた・児童相談所・子どもの権利相談室・警察・スクールロイヤー機能 等)

(1) 「いじめ対策委員会」の役割

- ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認
- ・教職員による「点検と見直しのためのチェックシート」や保護者対象の「学校評価アンケート」を実施し、学校におけるいじめの防止等の取組の検証を行い、改善策を検討していく。
- イ 教職員への共通理解と意識啓発
- ・年度初めの職員会議等で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、共通理解を図る。
 - ・教育相談アンケート（いじめに関するアンケート）や教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効性のあるいじめの防止等の取組に努める。
 - ・教職員の資質能力向上を目指し、いじめの防止等に関する校内研修や伝達講習を計画・実施する。
- ウ 生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発
- ・ホームページ等を通して、学校いじめ防止基本方針の周知やいじめ防止の取組状況、学校自己評価の結果等を発信する。
- エ いじめへの対処
- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、直ちに「臨時いじめ対策委員会」を開催し、正確な事実の把握に努め、いじめの解消にむけた指導・支援体制を組織する。
 - ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。
 - ・「臨時いじめ対策委員会」において犯罪行為が疑われたいじめについては、直ちに学校から警察署（生活安全課）へ連絡・通報し、適切に連携を行う。その上で、学校としていじめの再発防止のための指導・支援を継続して行う。
 - ・いじめ解消の判断をする。

(2) いじめ対策委員会の構成員

<教職員>

- | | | | |
|---------|-------------------|-----------------|-------|
| ○校長 | ○教頭（教育相談コーディネーター） | ○教務主任 | ○校務主任 |
| ○教育相談主任 | ○生徒指導主事 | ○学年主任 | ○担任 |
| ○養護教諭 | ○スクールカウンセラー | ○スクールソーシャルワーカー等 | |
- ※必要に応じて、保護者の代表や校外の専門的な知識を有する方を加える
- | | | | |
|---------|------------|---------|---|
| ○主任児童委員 | ○学校運営協議会委員 | ○PTA代表者 | 等 |
|---------|------------|---------|---|

(3) 「子どもを語る会」の役割

- ・全教職員で生徒の実態と指導方針の共通理解をし、いじめ問題に対して組織的に対応する。

(4) 「いじめ対策委員会」「子どもを語る会」の開催時期

- ア 学校全体の様子を把握し、いじめ防止・いじめ対策に努めるために、定期的に「いじめ対策委員会」を開催する。
- イ 毎月職員会議後、「子どもを語る会」を開催し、日常の生徒の実態を教職員で共通理解し、対応先の検討や方針の徹底をする。
- ウ 緊急にいじめ事案への対応が求められる場合については、「いじめ対策小委員会」を臨時に開催する。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) 未然防止の取組

- ア 生徒同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。
- イ 生徒の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ウ 生徒自らがいじめについて考え、主体的に行動できる取組を充実させる。
- エ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育（権利学習プログラム）の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- オ デジタル・シティズンシップ教育を推進し、生徒がインターネットや SNS の正しい利用とマナーについての理解を深め、責任ある行動ができるようにする。
- カ 感染症などに関連するいじめや偏見、差別をなくすよう学校全体で指導する。
- キ いじめの問題やその取組についての理解や協力を得るため、学校いじめ防止基本方針をホームページに掲載するなど、保護者や地域住民、事業者等に対して広報啓発を充実する。
- ク 全ての教職員が学校いじめ防止基本方針を共有し、いじめやその対応について正しく理解し、認識して教育活動に取り組む。

(2) 早期発見の取組

- ア 教師と生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- イ 教育相談アンケート（いじめに関するアンケート）や教育相談を定期的（5月、9月、11月、2月の年4回）に実施し、生徒の小さなサインを見逃さないように努める。
- ウ 「先生たすけて」を活用し、心配なことを相談できる環境を整え、生徒の小さな SOS の把握に努める。
- エ いじめの相談電話等、外部の相談機関を紹介し、生徒が相談しやすい環境を整える。
- オ 「いじめのサイン発見チェックシート（保護者用）」を学校ホームページに掲載し、保護者が早期発見できるようにする。
- カ 月に1回の「教職員チェックシート」による点検や年に2回の「hyper-QU」の実施の結果から、学級の様子や個々の生徒の様子を把握し、いじめの兆候の把握に努める。
- キ 教職員間で情報共有する「子どもを語る会」を定期的に設け、一人の判断で見逃したり、抱え込んだりすることがないようにする。

(3) いじめへの対処

- ア いじめの発見・いじめの疑いがあるとの情報があった場合は、担任、学年主任、生徒指導担当に連絡し、連絡を受けた者は、速やかに管理職へ報告をあげ、「臨時いじめ対策委員会」を開催し、組織的に対応する。
- イ いじめを受けた生徒の安全を確保し、対応する。
- ウ いじめの状況について生徒に聴き取りを行う際には、客観的な事実を把握するよう心がけ、事実を正確につかむようにする。
- エ 記録は、事実が正確に記録されるようにし、適切に管理・保存する。
- オ いじめを行った生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- カ 教職員の共通理解、保護者との連携、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家や、豊田加茂児童・障害者相談センター等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- キ 対応が困難な場合などは、パルクとよたのいじめ対応支援チーム、心理や福祉の専門家からの指導・助言を受けるなど、豊田市教育委員会や関係機関等と連携し、適切な助言等を受ける。

- ク いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、新たに生み出さない集団づくりを行う。
- ケ 学校外で発生したいじめについて、放課後児童クラブやとよた地域クラブ活動等、生徒が所属する団体等がある場合は、当該団体等と連携して対応、指導、見守りを行う。
- コ インターネット上の名誉棄損行為等、犯罪行為が疑われるいじめ事案については、警察署とも連携して行う。

(4) いじめ解消の目安

いじめが止んだと判断できる状態でも、3か月を目安に十分な経過観察と適宜面談等を行い、「いじめ対策委員会」で最終的に「解消」と判断する。

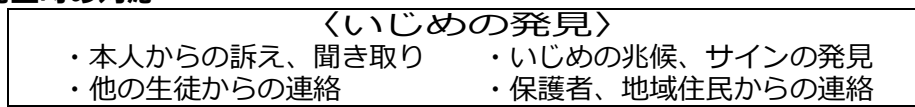
〈いじめが解消したと判断する目安〉

- ・いじめに係る行為が止んでいること
- ・いじめを受けた生徒が、心身の苦痛を感じていないこと

4 いじめの重大事態の疑いがある事案発生時の対応

- (1) いじめの重大事態が疑われる場合は、速やかに教育委員会に状況を報告し、早期解決を図る。その後、重大事態となった場合は、速やかに教育委員会に報告をし、適切に対応して早期解決を図る。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ問題調査委員会(いじめ対策委員会が兼ねる)」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- (3) 調査の目的等については、いじめを受けたとされる生徒やその保護者、いじめを行ったとされる生徒やその保護者に対して説明する。
- (4) 調査結果については、いじめを受けた生徒やその保護者、いじめを行った生徒やその保護者に対して適切に情報を提供する。

「いじめ」発生時の対応



	被害生徒へ	保護者との連携	加害生徒へ	周囲の生徒へ 学級、全校へ	青少年相談 センター (バルクとよた)
早期対応 担任 学年主任等	<ul style="list-style-type: none"> ・事実関係の丁寧な把握 ・心のケア、安全確保、全面的な支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実関係の報告 ・信頼関係の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実関係の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の生徒から事実関係の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者の電話相談、(随時) ・いじめ解消支援のための指導主事の学校訪問 ・スクールソーシャルワーカーの派遣 ・心のケアのため、臨床心理士の緊急派遣 ・子ども家庭課、児童相談所、警察等、関係機関との連絡調整
↓	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">いじめ対策委員会 協働体制の確立、指導方針の共通理解、 情報の共有・記録</p> </div>				
中期対応 組織的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方針の伝達、理解 ・協働意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの様態に応じた指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識の高揚 ・学級内の共感的人間関係づくり ・自己有用感を実感させる学級経営 	
↓	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">いじめの解消は、いじめが止まって 少なくとも3か月を目安とする</p> </div>				
長期対応 全校体制で	<ul style="list-style-type: none"> ・適応の促進 ・対人関係能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の育成 ・人間関係づくりの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高める道徳・特別活動の実践 ・いじめ問題を解決、学級集団の育成 	

留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめられる側にも問題がある」という不適切な対応はいじめを誘発・助長するということを理解する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者側の保護者の心情を十分に理解、生徒の変容の把握が必要 ・加害者側の生徒の成長を促す支援も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・刑法に触れる犯罪行為は、たとえ子どもであっても許されないという認識が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・誤った情報や憶測が流れないように、十分な対応、配慮が必要 ・場合によっては説明会も必要 	
-----	--	---	---	---	--

5 学校の取組に対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、取組の内容を振り返り、児童生徒や保護者、地域の方の意見を参考にした上で定期的に見直しを図り、実効性のある取組となるよう努める。
- (2) 教職員による「点検と見直しのためのチェックシート」、「【チェックリスト①】いじめ重大事態に対する平時からの備え」を年2回（7月、1月）、実施し、いじめ対策委員会で取組の検証を行う。

6 その他

- (1) いじめの防止等に関する校内研修（OJT研修）を年2回計画し、生徒理解やいじめの防止等に関する教職員の資質向上に努める。
- (2) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめの未然防止やいじめの早期発見に取り組む。
- (3) 「学校いじめ基本方針」はホームページに掲載する。必要に応じて、年度途中に見直しをする。